

僕の使っている公民の教科書のある一ページに飢餓に苦しむ幼い子供の写真が載っています。世界には日本のような比較的裕福な国もあれば飢餓に苦しむ貧困な国もあります。

僕は2年前オランダで生活をしていました。隣の国のドイツに家族旅行に行った時の事です。一人の男性と六歳くらいの男の子が道路に座り、お金を溜める為の缶を置き、プラカードを持っていました。そのプラカードには「この子に十分な教育を」と英語で書かれていました。世界には十分な教育を受ける事の出来ない子供がいる事を目の当たりにしました。

そしてこの作文を書くにあたって税金の仕組みについて調べたところ税金が発展途上国などの貧しい地域への支援となっている事を知り、驚きさらに詳しく調べてみる事にしました。

日本は発展途上国の方々に税金からお金を出し公共施設建設の援助や結核や肺炎などの病気を治す為の薬などを送る活動であるODAを行っているそうです。僕はこの活動の内容を知った時、国民のお金を他国に渡す必要があるのかと疑問に思いました。

しかし、よく調べてみた結果僕たちがジュースを買う程のわずかな金額で発展途上国の子供達に予防接種を受けてもらえる事が分かりました。僕は少し我慢をする事により子供たちの命を救えるのならODAは素晴らしい活動であると考え直しました。そして僕はODAで使用される税金は日本と世界を繋ぐ「架け橋」であると考えました。さらにODAは世界への恩返しでもあると思います。東日本大震災の時や、熊本地震、西日本豪雨などの災害の際資金援助やボランティア活動など日本が困難な局面で様々な復興支援を外国の方々にしてもらいました。日本はそれに応える使命があると思います。

僕は以前オランダであるNGOに所属する方の話を聞きました。その方は、「世界には十分な教育を受ける事が出来ない子供。十分に食事が出来ない子供。病気になり命が危ない子供。その子たちを救う事が私たちに出来る事なのです。」

とおっしゃっていました。僕は税金の力も必要だと感じました。世界には約八億人もの人が飢餓に陥っています。さらに発展途上国では千人のうち五十人が五歳の誕生日を迎える前に亡くなっているそうです。僕たちはこの現状をしっかりと受け止めなければいけません。

僕の教科書に載っている飢餓の子もドイツで見た子も税金により救われるかもしれません。僕はまだ税金を納める事は出来ませんが今後出来る事は架け橋を延ばす事です。橋を作るには鉄鋼が必要ですが架け橋の場合は、税金が必要不可欠な材料になります。

僕は教師になる事が夢です。もし夢が叶ったなら子供たちに税金の事や税金により助ける事の出来る人たちの事を、教えたいです。